



特集

物流 × DX

2024年問題の解決へ！ 持続可能な物流センターとは？

市の企業誘致により完成した物流施設「アイミッションズパーク桑名」が、全国でホームセンター事業を展開する株式会社カインズの専用物流施設として、今年から稼働しています。この施設では、物流2024年問題の解決につながるDX施策があちこちに見られます。今月はこれらの取り組みについて紹介します。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)

アイミッションズパーク桑名とは？

中京圏や西日本へのアクセス良好な立地 自動化や小人化*が可能となるようDXを推進

伊藤忠商事が伊藤忠都市開発と共同で開発を進めてきた「アイミッションズパーク桑名」は、昨年6月、多度町に竣工しました。東名阪自動車道「桑名」ICから約7.5km、「桑名東」ICから約7kmという好立地です。竣工と同時にカインズへ引き渡され、今年3月から流通センターとして本格稼働をスタートさせました。施設内には自動化や小人化を目的としたロボット・センサー・カメラなどの機械類が導入され、DX化が進んでいます。*小人化とは、最も少ない人数で業務に対応できる体制を作ること。



広報くわな KUWANA

- 02 伸びゆくまち・桑名
第28弾 公民連携で地域が活性化！
3周年を迎えた健康増進施設「神馬の湯」
- 04 キラリ★くわな人
- 05 **特集** 物流×DX
2024年問題の解決へ！
持続可能な物流センターとは？
- 08 令和6年度 桑名市の予算
- 10 今年度も桑名市の人口減少対策・
子育て施策がすごい！
- 12 4月から市の組織・機構が変わりました
- 13 家庭用宅配ボックスなどの購入費用の一部を
補助します！
- 14 桑名市地域包括ケア計画を策定しました
- 16 子育て広場
図書館・六華苑・博物館

目次 contents

- 18 メディカルニュース
くわな防災教室
- 19 人気の給食レシピ
みんなの掲示板
- 20 EVENT ALBUM(イベントアルバム)
- 22 くわなINFO
- 30 無料相談
- 31 くわなスタートアップ・オープンフィールド
取り組みレポート！
市長まちなか探索
- 32 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイトコ教えてください。

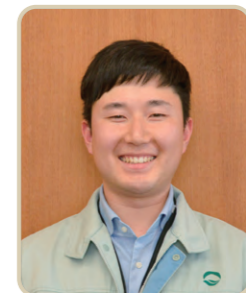
今月の表紙

オープンから3年が経った神馬の湯。公民連携によって、税金を使わず、建設から運営までの全てを民間事業者の力でっており、まだまだ進化を続けています。



小阪さんは、2月29日(休)に名古屋で開催された弓道世界大会に、日本代表として出場しました。世界大会には、25の国と地域から36チームが参加し、小阪さんが所属する日本Aチームが優勝を勝ち取りました。

1チームは、選手3人、補欠選手1人の合計4人で構成されており、日本からは2チームが出場。小阪さんは、地区予選を勝ち抜き、日本団体代表選考会で、20本中18本を的に当て、日本代表メンバーに選ばれました。今回は補欠選手として、大会に臨みましたが「弓道は、技術面だけでなく、メ



弓道世界大会 日本代表
桑名市役所 下水道課
ひしょう
小阪 飛星さん



弓道場で練習に励む小阪さん

普段は、桑名市役所の職員として働いている小阪さん。大会までの間は、仕事が終わってから毎日、弓道場で練習をしていたそうです。今後は、勤労者弓道選手権大会に桑名市役所チームとして出場したいと意欲を語ってくれました。一緒に大会に出場するメンバーを募集中だそうです。桑名市役所チームが結成されることを楽しみにしています。

キラリ★くわな人

「ンタル面も重要。自分が控えることで、何があっても大丈夫という安心感をメンバーに与えられるように練習に励みました」と話してくれました。



3F 緑のラウンジ



有軌道台車



デパレスシステム



無人搬送車



外観

小人化につながる機器を積極的に導入し 持続可能な流通センターをめざす

中京圏や西日本へのアクセス良好な桑名

商品配送のための 輸送距離を半減

教えてくれたのは
株式会社カインズ
物流インフラ開発部
部長 石那田 篤 さん



多度町にあるカインズ桑名流通センターは、令和元年「ころから構想がスタートし、昨年に竣工した流通センターです。カインズの商品は海外から輸入されるものが多く、これまでは全て群馬県太田市にある「太田流通センター(マザーセンター)」へ集約されていました。しかし、物流の2024年問題(※1)への対応に迫られ、中部や西日本エリアの店舗配送の距離や時間を短縮するため、西側の流通センターを立ち上げることになったのです。

西日本や中京エリアにある既存店舗へのアクセスを考えた時、桑名という立地に魅力を感じました。加えて、今後大山田PAがスマートICになる予定であることも伺い、より利便性が高くなることを見据えています。

北は北海道、南は沖縄まで店舗を構えているカインズ。物流の仕組みは、まず海外からの輸入商品が東京港または名古屋港に到着し、マザーセンターへと輸送されます。そこから店舗へ配送するための商品仕分けを行う各地のTCセンターへ商品を配送します。そのため、これまでは太田流通センターから西日本へ、陸路を使って大量の荷物を運ぶ必要がありました。

しかし、桑名流通センターができたことにより、西日本への輸送距離や時間は大幅に短縮。長距離輸送の削減により、CO2の削減にもつながっています。

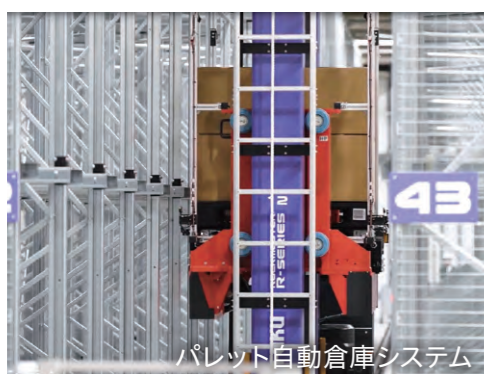
自動化できるところを みんなで考える

一般的に、ホームセンター業界はDX推進が難しいと言われていています。その理由は、取扱商品が大きなものから小さなもの、軽いもの、重いもの、多種多様なアイテム数が膨大だからです。そこで、社内プロジェクトチームを立ち上げ、各メーカーに相談しながら「私たちの物流で自動化できる場所はどこなのか」とことん考えました。

一番頭を悩ませたのは、多種多様なマテハン(※2)を導入しても横の連携がなければ、望む生産性が得られないという点です。そこで、マテハン同士を連携させる倉庫運用管理システムを導入しました。

小人化につながる機器により 人手不足を解消

桑名流通センターには、当社初の試みとして無人搬送車を35台導入しました。従来は人がフォークリフトを操作して行っていた搬送作業をロボットが行います。上位システムと連携しているため、出荷の指示が入れば自動的に無人搬送車が商品を搬送します。「デパレスシステム」は、パレットからの荷下ろしをロボットが担います。オペレーション自体はシンプルなので、働き手への負担は軽減され、また、人手不足の解消にもつながりました。しかし、当初の設計と現場とのズレを改善して最大の効果を発揮させ、さらにそれらを水平展開していくことが重要だと考えています。



パレット自動倉庫システム



高密度補充が可能な移動棚

※1 トラックドライバーの時間外労働時間の規制により、輸送能力が不足し、モノが運べない、モノが届かない可能性が懸念されていること。

※2 「マテリアルハンドリング」の略。物流現場においては、資材や部品などの移送や搬送において小人化・省力化に利用される機器のこと。

環境負荷軽減の取り組み

太陽光発電+LEDなどにより 環境へ配慮

建物屋上に太陽光発電パネルを設置。約2.7メガワット(一般家庭の約800世帯分の年間電力量に相当)を発電することが可能で、施設で使用する電気を一部賅っています。また、全館LED照明を採用し、環境へ配慮しています。



太陽光発電パネル

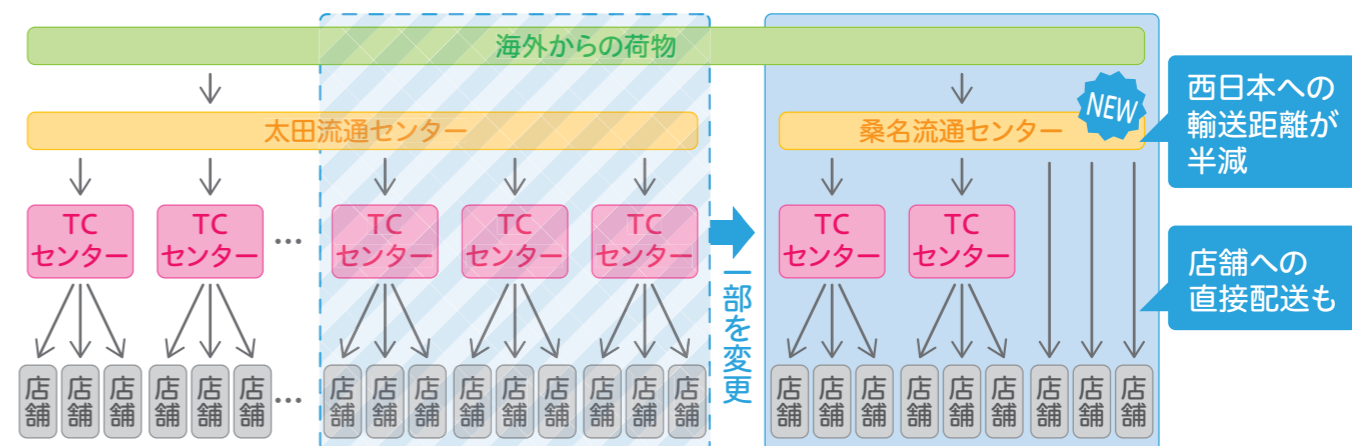
エントランス

パレットの一部にOBP素材(海洋再生パレット)を採用

海に流れ出る可能性のあるプラスチックごみを回収し、リサイクルした素材「OBP」をパレットの一部に利用しています。カインズが掲げる「2050年カーボンゼロ達成目標」への取り組みの一環です。



OBP



西日本への輸送距離が半減

店舗への直接配送も

一部を変更